



現地でのフィールドワーク

oasis

学生

地域貢献事業

第17回

過疎地や都市部で深刻化するフードデザート問題を調査する。食事を作るための買い物に困難な生活弱者の問題を解決したいと活動を続けてきた。

2022年、北設楽郡東栄町の協力の下、住民にアンケートを

行った。アンケート内容、町のアドバイスを受けながら決め、10項目に絞り込んで町内に配った。買い物に対する満足度から、普段どこで買い物しているか、交通手段や費やす時間などを質問した。回答板を利用してエリアごとに配布。35%から回答を得ることができた。

「過疎地だけに、不自由を感じている割合が多いだろうと予測していたが、町の職

員からは『そもそもないかも』との声があり、意外だった。アンケート結果にもその声が見えた。詳細は分析中だが、「80代の方でもバリバリに車を運転して、遠くまで買い物に行けることが分かった。車が運転できる限り、不自由を感じていないよつにもみえた。ただ、では数年後も大丈夫

夫かというところ、それは厳しい感じがする。運転ができなくなったときにどう対応するかがカギになると思う」と話す。もう一つ、アンケートの行間から分かったことがある。それは「アンケートに答えられるくらい元気な人は困っていない」ということだ。答えることができなかった65

買い物を毎日楽しく



アンケートの準備

%こそ、生活弱者ではないか。郵便を出すためにポストまで行けない人が、確かにいる。それも大きな発見だった。1年をかけて調査活動は終了し、回収したアンケートを分析し、今後の活動に反映させる作業が始まる。「アンケートに答えてくれた人の中には『便利ではない暮らしを楽しむことができない。不便を分かった上でこの

町に住んでいる」という前向きな意見も一定数あった。都市部から過疎地を想像するのは異なる現状が、アンケートから見えてきた。「生活圏は町外にも広がっている。移動販売などを充実させることで便利さがアップするかもしれない。アンケートを分析しながら移動販売にも注目していきたい。」

(大林恭子) ※協力・愛知大学